

発行責任者 太田 効 (62-5727)
議員連絡先 うすい孝彦 (62-5093)
服部 久子 (62-4357)

共産党の公約さっそく実現 池田町の予算説明書

「わかりやすい町の仕事」が完成

山本 冊子の内容と作成に至った経過をお聞かせください。

ニセコ町のやり方を参考にしましたか。

大沢 54頁で、各課ごとに事業総額と内容、主な経費（当初予算額）と財源を記入しています。写真や図を使い、分かれやすくする努力をしました。

府内の会議で「町民から分かりやすいものを作つて欲しい」という要求があるとの意見が出され「町づくり推進係」で取り組むことになりました。ニセコ町は参考にしました。

山本 冊子作成の費用や、これまでの反響はどうですか。

大沢 パソコンで作成し、役場のプリンターで印刷したのでお金はかかりません。町のホームページで見ることもできます。各自治会に2冊ずつ配布し、希望者には取りにきていただければ無料でお渡しします。大北管内の市町村からも

問い合わせが多くありました。
山本 1ヵ月くらいの期間で作成したとのことです。方法はどのようにしたのでしょうか。急いで理由は何ですか。
大沢 私がフォーマットを作り、それを参考にして各課から原稿をあげてもらいました。ですます調に統一するなど、難しい言い回しを避けて分かりやすくしました。当初予算をベースにして作ったので、早くしないと意味がないと思いました。
山本 冊子を作成して良かったと思う点は何ですか。来年度からはどのように配布するのですか。
大沢 町民の皆さんには、「この事業にこれだけお金がかかっている」ということを理解していただけたらありがたいです。職員も自分の仕事の範囲しか分からぬことが多いので、これを読めば全体が理解できるのではないかでしょうか。

今回は作成を急いだので煮詰まつたものになつていません。5年間くらいかけてバージョンアップして良いものにしていただきたいと思います。

大勢の町民の皆さんに読んでいただきたいので、来年度は無料で全戸配布します。

■ インタビュー後記 ■

お話を聞きながら、この仕事を取り組んだ大沢さんの熱意が伝わってきました。

「町の仕事の内容を少しでも分かりやすく伝えたい」との思いで、工夫して作っていただいた冊子は、今後の町づくりを考える上でも参考になるものです。これからも良い仕事をしてください。

その後テレビCMや雑誌、ラジオ番組などに登場してびっくりしたものだが、今は100歳以上の方が4万人を超えた。介護現場の方々に聞くと90歳を超えるとほとんど何らかの介護が必要になるとという▼老老介護(ろうろうかいご)という言葉があるが、高齢者が高齢者の介護をせざるえない状況が生まれている。80歳の嫁が100歳の姑を介護などという例もあるそうだ▼認知症の高齢者を介護する高齢者自身が認知症を患い、適切な介護が出来なくなる「認認介護」も増加しているという。要介護者の幸せのためにも考えなくてはならないことは、介護する家族への理解とフオローであると思う▼新婦人池田支部では「介護小組」を発足させることになった。お互いの悩みを出し合うことから解決の道を探り、元気になれたらというのが設立の目的だ。一人で悩んでいる女性が「小組」に参加してくれたらと願っている。

大沢係長(作成責任者)にインタビュー

6月町議会でうすい孝彦議員が、共産党的の町議選政策にもとづき、「町の仕事を分かりやすく町民に伝える手立てを取つて欲しい」と要望。これに対し、総務課長から「すでに予算説明書を作成済みです」との答弁がありました。そこで7月7日、中心になつて作成にあたつた「総務課町づくり推進係長」大沢孔さんに、その経過や冊子の内容、苦労話をお

▼2010年の国勢調査では、日本の高齢化率は23%を超え、平均寿命は男性79・59歳、女性は86・44歳と世界トップクラスであるという▼1991年、双子姉妹だったきんさん、ぎんさんが揃って100歳を超えて長寿



(沖縄タイムス6/24から)

沖縄での地上戦から6年たつた今年の6月23日、沖縄県内の各地では沖縄戦での犠牲者を追悼する慰霊祭が行われました。

県南部の南城市にある妻の実家のすぐ近くに「アブチラガマ（糸数塙）」があります。ここでも住民による慰霊祭がしめやかに行われました。（写真1）

消えなし河緑草の記憶

ガマとは鍾乳洞などの自然壌のことです。

卷之三



写真2 遺族の訪問が絶えない魂魄の塔

それがそのまま残つてゐるのです。

本土の捨て石にされた沖縄

住民がここに避難しましたが、海からは艦砲射撃、陸からは米軍による火炎放射器などにさらされ、多くの人が命を落としました。黒、焼けた。

沖縄戦の特徴は、第1に本土防衛と国体（天皇制）護持のための捨て石作戦だったこと。第2に、現地総動員作戦のもと、住民が根こそぎ戦場

としました。黒く焼いた跡が今もあちこちに残つていました。

慰靈碑で印象深かつたのは「魂魄(こんぱく)の塔」です。

沖縄戦終結直後、住民は強制移住させられ、取り上げられた土地に各地で米軍基地が作られます。

文仁村(現糸満市)にも8

に動員されたことです。
このために、軍人よりも一般住民の犠牲者の方が多く、日本兵による住民虐殺も頻発。軍命による住民の強制集団死などの惨劇が各地で引き起こされたのでした。

000人以上の住民が集められましたが、食料確保が大問題に。周辺の畑を耕やそらとしますが、畑から出てくるのは住民や兵士の遺骨ばかり。まず遺骨の収集から始めなければなりませんでした。

こうして1ヵ所にうずたかく積まれた遺骨は3万5千体にものぼり、遺骨の囲いの最頂部の石に「魂魄」の文字を刻んだのでした。

6月23日の慰靈祭の日には、遺族らが訪れ、お供えものや花で周囲を飾ります。

住民の死者は15万人前後にのぼると見られています。県民の4人に1人が亡くなつたことになります。

こうしてみると、「沖縄を本土を守るための捨て石にする」という当時の軍部の考え方は、いまなお生きていると思わざるをえません。日本国民の総意で「基地のない沖縄」を勝ちとつてはじめて、沖縄県民にどうでも「あの戦争」は終結したと言えるのではないでしようか。